



2024年3月10日(日)に南丹市八木市民センター「iスタやぎ」で開催、大勢の方々にご参加いただきました。

P2に
関連記事が
あります

INDEX

表紙 耳のことフェスタ開催!!

P2 耳のことフェスタ (京都府聴言センター)

P3 ハラスメント対策研修について (京都市聴言センター)

P4 とくらの家開所にむけて (いこいの村)

P5 「京都北から南まで」 (福知山聴言センター)

P6 「お知らせ」「コラム 思う」 (法人事業本部)

別刷 組織図・職員紹介

能登半島地震災害派遣に寄せて

第5回
京都府

耳のことフェスタ 開催しました



ゲームを通して聞こえの違いを体験

機器体験、展示ブースでは、14社の聴覚の補助機器を取り扱う企業に賛同出展をいただきました。

東京の科学未来館から出展いただいた「サトウの達人」では、耳の老化現象をゲームを通して体験することができ、子どもも大人も聞こえについて興味を持てるブースになりました。

また、複数人の会話を文字情報で視覚化する「VUEVO」（ビュー

当日の様子

3月10日（日）、南丹市八木市民センター（イスタやぎ）において「第5回京都府耳のことフェスタ」を開催しました。

「耳のことフェスタ」は「聞こえに不便や不安があっても、安心して暮らせるまちづくり」をめざし、聴覚障害者だけでなく、府民を対象に聞こえに関する啓発やコミュニケーション支援機器の展示、体験や交流を目的にしています。ここ数年は、感染症対策のためオンライン開催でしたが、今年は久しぶりに集合型での開催とし、マイクロバスでの参加や親子連れ等180人の方に来場いただきました。



新しい技術を体験

ボ）の体験では、相談や積極的な質問をする方が多くみられました。

学びの場として、筑波技術大学産業技術学部の若月大輔教授から「ICT活用のあゆみと今後の展望」をテーマに講演いただきました。

また別部屋に飲食スペースを設け、無農薬野菜を使った地元カフェのお弁当を用意し、飲食、交流しながら講演の様子も見ていただける工夫をしました。

イベントを終えて

このフェスタを通して、参加され



ホールは満員

方にはICTや技術の進化に触れていただけかと思えます。これから聴覚障害者が自分の聞こえに合った機器を選択し、柔軟に取り入れることは大切になります。

私達の役割は、体験や実際に使用されている方の声をいち早く技術者にフィードバックしていくこと、同時に社会の変化に合わせた対応ができる体制を維持することです。字幕付き動画などテクノロジーを活用したり、公共施設や企業への環境整備の提案、啓発など、アプローチ出来ることは多くあります。

令和6年4月1日から事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されました。技術の進化や制度を追い風に、聴覚障害者の社会参加の促進につながるよう取り組みます。

（情報提供施設第一部 芦田裕子）

舞鶴センター移転のお知らせ

4月1日から、舞鶴市聴覚言語障害者支援センターと舞鶴市聴覚言語障害者地域活動支援センター「つるの会」が、舞鶴市中総合会館の3階に移転いたしました。電話・FAX番号はこれまでと同様です。引き続き、みなさまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新住所

〒625-0087 舞鶴市宇余部下1167（中総合会館内） 電話 0773-64-3911 FAX 0773-64-3912

誰もが働きやすい 職場を目指して



京都市聴覚言語障害センター（以下「市センター」）では現在、約160名の職員が働いています。労働安全衛生法では、労働者50人以上の事業所に安全衛生委員会の設置が義務付けられています。市センター安全衛生委員会でも、労働者の危険又は健康障害を防止するための基本とな



59名が参加「ハラスメント対策研修」

るべき対策などについて話し合い、より良い職場づくりをめざし活動しています。

その取り組みの一環として2月12日（月）NPO法人メンタルサポート京都 小川美子氏を講師に招き、『ストレスチェックの意義』と、『職場のハラスメント』について講義をして頂きました。コロナ禍以降3年ぶりの参集型研修となり、59名の参加がありました。

研修ではストレスチェックの意義を確認し、また、職員がハラスメントに関する正しい認識を持つことで、職員間の相互理解を深めハラスメントを起こさない環境・体制を持つ組織をめざすことを目的としました。

ストレスチェックを 活かしていくには

ストレスチェックの意義では、目的や個人結果の見方、

集団分析結果についてお話し頂きました。

小さなストレスでも積み重なって大きなストレスとなっていることがあります。ストレスチェックによって自分のストレス状態や傾向を知ることとで早期に対策ができ、疾病予防へとつながることを改めて理解しました。

また、職場環境改善では、みんなで話し合うことや話し合いの場を増やすことなどが大切となります。たとえ普段業務に追われ話し合う時間をとることが難しいことがあっても、どのような職場にしたいかを互いに意見を出し合う時間を作ることは必要であることを再確認しました。今後は、朝礼や課会議等の時間を利用して、話し合う時間を作っていけたらと思います。

ハラスメントを 起こさない職場づくり

職場のハラスメントでは、主に5つの内容について説明や対策のお話を頂きました。グループワークでは、事例検討を行いパワーハラスメントに当てはまるかをチェック項

目に沿って、意見交換を行い評価して頂きました。ハラスメントは、受け手がハラスメントと感じたら認定されるのではなく、客観的な事実確認など様々な要素から総合的に考慮して判断することを学びました。

研修後、職員からは「普段顔を合わせる事が少ない職員と意見交換を行えたことで、色々な意見をきくことができ」「個々によつて感じ方が異なることを改めて感じる事ができた」との感想が多くありました。

誰もが安心して働き続けるためには、互いに理解し認め合うことが大切です。そのためには思いや考えを伝え合うことができる環境づくりや職場内外に相談できる場所づくりなどの環境を整える必要があります。

この研修では、ハラスメントの知識や自身の価値観などを見直す良い機会となりました。今後も継続してハラスメント防止に関する取り組みや情報の周知を行っていききたいと思っています。

（安全衛生委員 西村香織）



京都聴覚障害児
放課後等デイサービス

「にじ」移転のお知らせ

4月8日から、京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」は、京都社会福祉会館の3階に移転いたしました。

電話・FAX番号は、これまでと同様です。新しくなった「にじ」を、今後ともよろしくお願いいたします。

新住所 〒604-8804 京都市中京区壬生坊城町48-6 京都社会福祉会館 3階 電話 075-406-7530 FAX 075-406-7531



『いこいの村 とくらの家』外観

いこいの村 とくらの家 リニューアル

障害者向けグループホームを
4月1日より開所

「いこいの村・とくらの家」（認知症対応型地域密着型）は2011年（平成23年）に開所以来13年の間、地域の皆さまのご要望にこたえるため、工夫しながら運営を続けてまいりました。しかしながら、介護保険制度の課題もあり、経営面の課題を解決することが困難となりました。同時に障害者が利用できる資源の確保を模索した結果、これまでご利用いただいた方は当法人が持つ特別養護老人ホーム「いこいの村・梅の木寮」を始めとする介護事業所等で支援を継続し、施設や設備をそのまま障害者向けのグループホームへ事業転用しました。

障害のある方々の 住まいの場として

綾部市内には障害者の入所施設がいこいの村の栗の木寮（障害者入所施設、グループホーム）、綾部福祉会（グループホーム）のみで、障害者の暮らしの場が不足しており、親亡き後の生活が深刻な問題になっている現状があります。「第

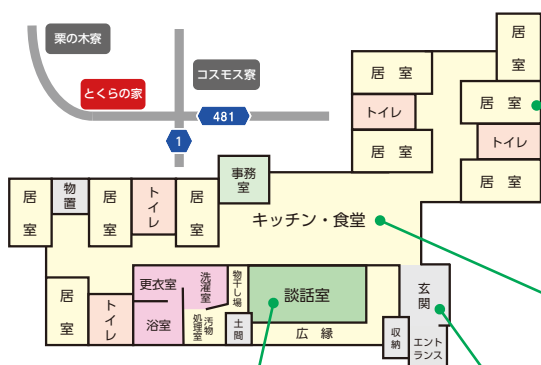
6期綾部市障害福祉計画」に、家族の高齢化や、本人の高齢化に伴う障害の重度化により、家庭での暮らしを維持することが困難になっている課題が挙げられていました。

こうした地域課題を踏まえ、4月1日より障害のある方々の住まいの場として「いこいの村・とくらの家」は障害者向けグループホームとして生まれ変わりました。地域生活の要となるもので、障害者がひとりぼっちになって生活に困窮することがないよう役割を果たします。

今後、現在ある障害者向けグループホーム「コスモス寮」（定員4名）と「とくらの家」（定員9名）を一体型運営とし、綾部市内や中丹圏域の障害福祉サービスのより良い充実を図ってまいります。

新生活をサポート

開所に向けて、定員13名のうち、現在11名の方に入所の準備を進めていただいています。聴覚障害者、盲ろう者（聴覚と視覚障害）、



身体障害者（健聴者）、精神障害者（健聴者）の共同生活となります。

入所者やご家族は新生活を楽しみにされている一方で、不安も持たれています。アットホームな雰囲気の中で一人ひとりが持てる

力を発揮できるようサポートしていきます。今後とも「いこいの村・とくらの家」並びに「栗の木寮」に対するあたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（施設第一福祉部 吉田航）



が、かざぐ
るまの始ま

の集まり「木曜日の会」を毎週開催していただきました。難聴者を中心に集まる場もほ

「あー、ここかー。あとひとつが分からなかったんや」火曜日の朝、集まった方々の感嘆の声から、中途失聴・難聴者の集まり「かざぐるま」が始まります。

平成23年当時、聴覚障害者の集まり「木曜日の会」を毎週開催していただきました。難聴者を中心に集まる場もほ

京都 北から南まで

福知山市聴覚言語障害センター



かざぐるま

～福知山～



りです。指をくるくる回す「手話」の単語表現の動きから発想をえて、かざぐるまの名付けました。現在も大切な集いの場として、手帳を持たない難聴者も共に、取り組みを楽しんでいます。

文字による通訳がある中で、スマホ学習や料理実習、お花見やボッチャなど、集まる方の希望に沿って開催しています。その中でも、毎回行う脳トレ（間違い探しなど）は、解けないと悔しいが、それが良いと人気です。また、自宅での空き時間に取り組めるように、持ち帰っていたくださともあり、こちらも好評です。きこえの保障がある集まりに参加し、お話を楽しみながら、健康長寿を目指します。（北都市町村支援部

藤村浩司）

5年ぶりに 700人が集う



2月23日（祝）、京都府長岡京市で開催された「第50回耳の日記念集会」は、京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク（以下、府ネット）の主催行事です。

今回は5年振りの集合開催ということもあり、大にぎわいでした。

2022年発行の「レインボー3」の学習活動や5地域と各団体による取組報告、和太鼓や手話劇などの祭典が行われたほか、特設企画「きこえの機器展」も併催されました。

法人としても、府ネットや地域のみなさんと一緒に、聴覚障害の権利向上をめざし、事業に取り組んでいきます。（法人事業本部）



退職者一覧

（退職 3月31日付）

◆法人事業本部

総務部

古田 正樹

◆京都市聴覚言語障害センター

介護福祉部

森岡 素子

高齢福祉部

足立 朝子

情報提供施設部

松嶋 彩子

介護福祉部

古田 友梨恵

◆いこいの村聴覚言語障害センター

総務部

山本 真弘

施設第一福祉部

田中 正敏

施設第二福祉部

松岡 千恵美

施設第三福祉部

奥本 初実

施設第四福祉部

荒井 大紀

施設第五福祉部

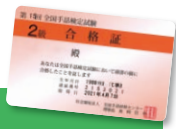
吉田 直子

介護福祉部

角山 千代子

今回(2023年度) 20名が合格!

手話検定団体受験2023



3月11日(月) 2会場(京都市聴覚言語障害センター、いこいの村)で職員を対象に実施しました。

受験した職員は、検定合格を目指し、一年間研修や自宅学習などに取り組みました。

今回は26名がチャレンジ。20名(1級8名、2級6名、3級6名)が合格しました!!



2024年度も引き続き取り組んで参ります!

あなたの声で 聴言ニュースを作る! ～アンケートのお願い～

聴言ニュースについてみなさまからの感想、意見、ご希望、ご要望をお知らせください。

- 今回のニュースについて感想
(写真や動画について、内容について)
- 読みたい記事
(知りたいこと・載せてほしいこと)

アンケートハガキ、ホームページ、QRコードにて法人事業本部 聴言ニュース担当までお寄せください。

アンケート
フォーム▶



社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
法人事業本部 TEL(直通) (0774) 30-9003
京都府聴覚言語障害センター
TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター
TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311
いこいの村聴覚言語障害センター
TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610



ホームページ
はこちらから

詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>



能登の地震
理事長 高田 英一

この2024年(令和6年)1月1日16時10分に、石川県の能登半島地下16kmで発生した地震の震源地は珠洲市内です。この地震のマグニチュードは7・6で、内陸部で発生する地震としては日本でも稀な大きさの地震でした。震災で家屋の倒壊が相次ぎ、死者が200人を超えて交通網も寸断され、奥能登地域を中心に北陸地方の各地で断水、停電、日本海沿岸の広範囲で津波が観測されました。能登にある能登就労支援事業所「やなぎだハウス」は、元全日本ろうあ連盟理事・故北野雅子さんが創設に努力しました。かつて松

本正志さんが所長に招請され京都府ろうあ協会から応援と観光に20人ほどが車に分乗して何回も道に迷いながら訪れたことがありました。石川県は輪島の朝市、白米千枚田、七尾市にある縄文時代の遺跡、和倉温泉、のと鉄道と美しい想い出多き土地です。今度の災害でそれらは大なり、小なり被害をうけました。やなぎだハウスは元消防署なので流石に頑丈で、倒壊こそしませんが内部は惨憺たる様子でした。震災の後、当法人から復興の手助けに本部といこいの村から何回かに分けて数人が泊まりがけで駆けつけました。日本は地震国なのでこのような災害はいつでも起こるかわかりません。そのような時に国を挙げて救援、支援、復興に駆けつけたものです。

法人へのご寄付 敬称略

2024年1月1日～3月31日

地域	氏名	
左京区	京都言語障害研究会	寄附金100,000円
中京区	青木 裕子	電気ポット1個
中京区	坂元 正子	タオル37枚
伏見区	高橋 喜彰	入浴剤10個、ぬいぐるみ2個
京丹後市	かぶとく歯科	寄附金100,000円

法人後援会会員の状況

2024年1月1日～
3月31日
までにご加入

955名

(新規 15名)
(継続 183名)